

平成26年度 学校評価表（自己評価）

奈良市立一条高等学校

学校経営計画		
建学の精神	一条高等学校開校時、初代校長渡邊真澄氏はその出発をコロンブスのサンタ・マリア号の船出にたとえた。爾来、開拓者魂(フロンティア・スピリット)をもって建学の精神としている。生徒達は、校章とともに、この精神を表象するサンタ・マリア号を圖案化した副章を身につけている。	
教育目標	教育基本法の精神と本校創設の理想にのっとり、時代の進運に即して豊かな知性と情操とを身につけ、健康で気力にあふれ、人間尊重の精神を基盤として積極的に努力する新時代の人間を育成することにある。学校教育の全面にわたって教育効果の向上を期するため、次の目標をかかげて努力する。 (1) 国際理解の精神に生きる視野の広い人間の育成。 (2) 合理的に思考し、着実な実践に努め、人間を尊重して民主的な社会を創造する人間の育成。 (3) 自主的に行動できるとともに、自分の行動に責任をもつ誠実な人間の育成。 (4) 規律・秩序・礼儀を重んじ、社会性と、品位のある人間の育成。 (5) たくましい体力と旺盛な気力をそなえ、信念をもってねばり強く努力する人間の育成。	
目指す学校像(ビジョン)	本年度の重点目標	具体的指標
(1) 師弟一体 (2) 知・徳・体の調和のとれた教育と現代感覚をそなえた自他敬愛の教育	知【学習指導の充実】	基礎的・基本的な内容の定着を図り、課題を解決する能力を育てるとともに、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育てる。そして主体的に学習に取り組む態度を養い、学習習慣の確立を図る。また、「学習・情報センター」として学校図書館を計画的に利用し、主体的・意欲的に学ぶ能力や態度を育てる。
研究主題 「規範意識や公德心を育てる取組」	徳【道德教育の充実】	人権尊重の精神を養い、自他の人権を擁護する実践的な行動力を育てる。また、自他の生命を尊重する精神、自律の精神、社会連帯の精神並びに義務を果たし、責任を重んずる態度や、公共の精神を尊び、社会全体の利益を図ろうとする態度を育てる。
研究主題のテーマに基づき、以下の内容の取組を推進する。 ①生徒指導にかかわる取組 ②生徒会指導にかかわる取組 ③校内美化にかかわる取組 ④人権教育にかかわる取組 ⑤情報教育にかかわる取組	体【体育・食育の充実】	主体的に運動に親しみ、体育や健康に関する活動を実践する態度を育成するとともに、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。また、食育の推進とともに、心身の健康の保持増進を実践する態度を育てる。
	夢【キャリア教育の推進】	キャリア発達を支援し、一人一人にふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる。また、生き方の自覚を深め、望ましい勤労観、職業観の育成、社会奉仕の精神の涵養を図る。
	誇【世界遺産学習の充実】	わが国や郷土奈良の伝統、文化、自然等に対する関心や理解を深め、それらを尊重し、継承・発展させる態度を育てる。また、国際感覚豊かな広い視野をもち、新しい文化の創造と発展に貢献できる能力や態度を育てるとともに、英語を活用して、奈良のよさを世界に発信できるための、表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価
総務	① 校舎の耐震工事に伴い、良好な学習環境が保たれるよう努める。	耐震工事の実施に伴う諸問題について、事務や関係分掌と協力し、校内の施設の使用を工夫し、学校運営が円滑に行われるよう取り組む。	耐震工事期間中の教室等校内施設の利用状況	総合的に判断する	B	B
	② セミナーハウスがより利用しやすい施設となるよう、環境を整備する。	セミナーハウスの老朽化が進んだ部分について、適宜改善していくとともに、利用方法も含めて、良好な環境が保たれるような方途を工夫する。	生徒アンケート	「本校のセミナーハウスは快適に利用できる」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が80%以上でA、70%以上でB、60%以上でC、60%未満でD。	-	B
	成果と課題	耐震工事に関しては、夏期休業を中心として職員室及び本館各教室の使用が大きく制約される状況であったが、関係各部署の理解や協力もあり、職員室内の移動等もおおむね円滑に行うことができた。セミナーハウスの環境に関しては、修理が必要な箇所や買い換えが必要な備品についてはその都度対応してきたが、利用者から見て不十分と感じる点もあるようである。				
	改善方策等	次年度に予定されている講堂や西館の耐震工事においても、関係各部署と連携を密にして、施設の使用を工夫することが必要である。セミナーハウスの利用に関しては、修理や備品の買い換えとともに、清掃や使用方法について、利用各団体に周知徹底を図ることが必要である。				

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価
教務	① 学力伸長のため取り組みをするとともに学習指導の充実を図る。	教育課程の実践に向け、シラバスやコース選択の資料等を活用しつつ、基礎・基本的な内容を定着させるように展開し、生徒が主体的・意欲的に学ぶ能力や態度の向上を図る。	生徒アンケート	総合的に判断する。	-	B
	② 諸帳簿の的確な運用を明確化する。	教務運営の機能化のために、諸帳簿や提出書類等を的確に運用できるよう具体的な例や改善策を提示し、教員の実践的指導力の向上を図る。	具体例や改善策の提示	提示回数が3回以上…A、2回…B、1回…C、できず…D	B	A
	成果と課題	新教育課程による展開を全学年で実施。総合的な学習については、各教科の特徴を活かした取組を展開した。特に第2学年普通科では「奈良タイム」を昨年度から展開し担当者には様々な工夫をしていただき成果がみられた。生徒アンケートの結果では、「熱心に学習指導が行われている」との問いに90%近い肯定的な評価を得たが、さらに生徒が主体的、且つ意欲的に学ぶ能力や態度を身につけさせるよう努力する。教務運営上の機能化については、今年度の反省を来年度の課題とし、全教員の協力を得て取り組み、実践的指導力の向上に努める。				
	改善方策等	総合的な学習については、各教科や学科と連携し、生徒が興味を示し取り組めるものにする。シラバスや教務内規については、現在実施している状況を確認し課題については検討の上、発展的なものへ変更等取り組む。教員の実践的指導力を向上するため、諸帳簿や提出書類等の的確な運用を図るための具体策を示す。				

* 各評価値の合計基準=A→4, B→3, C→2, D→1に換算し、合計値を値の個数で除したものを五捨六入し、A~Dを標記

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価
進路指導	①	生徒の学習時間を把握し、学習習慣の確立を図るための指導を充実させる。	学習時間の記録 (統計資料)	毎日の学習時間が 学年で1時間以上 増加した生徒が 50%以上…A 25%以上…B 0%以上…C 0%未満…D	-	B
	②	各教科と連携し、夏期及び2学期以降の補習を充実させる。	生徒の補習申込数	補習への申込が 150人以上…A 100人以上…B 80人以上…C 80人以下…D	A	A
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間の記録、開始して2年目だが、十分に活用できていると言いき難い。次年度も継続し、学習時間を増やす取り組みを構築したい。 1週間あたりの学習時間が1時間以上増加した生徒は、1年36.7%、2年39.3%である。しかし、減少している生徒も47.2%あり、学習時間を増やすとともに減らさない取り組みが必要である。また、学習時間自体が少ない傾向にあるので、毎日の学習時間を「学年+1時間」を目標に、全体的な学習時間の底上げが必要である。 補習については、一定数、申込者はある(3年夏=23%、秋=33%、2年夏=8%、秋=10%)ものの、多くの生徒は補習を利用していない。さらに各教科、学年との連携を深める。 				
改善方策等	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間の重要性を再確認し、生徒への意識付けをしっかりと行う。また、記録の事前・事後指導のための時間を確保する。統計資料を工夫する。 各教科や担当者に頼っている補習の仕組みを、学校として組織的に取り組む体制を構築する。 各教科や各学年との連携をしっかりとおこない、各行事等を充実したものとする。 その他、学力テストの結果活用のための工夫、学習合宿の強化、3年生3学期に(仮称)『質問相談室』、eラーニングの紹介、新年度直前期の進路HRまたは講演会、… 					

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価
生徒指導	①	公共の精神を尊び、よりよい社会の実現に尽くせるよう、規範意識や公德心・正義感を育てる指導を強化する。	特別指導の件数	特別指導の件数が年間0～5回…A 6～10回…B 11～15回…C 16回以上…D	A	B
	②	人権尊重の精神を養い、自他を大切に、感受性の豊かな人物の育成に努めるとともに、安全で安心できる学校づくりを推進する。	生徒アンケート	「命や安全についての指導」の評価、プラス評価が80%以上…A 70%以上…B 60%以上…C 60%未満…D	-	A
	生徒アンケート	教育相談についての評価、プラス評価が80%以上…A 70%以上…B 60%以上…C 60%未満…D	-	A		
成果と課題	<p>昨年度より事故の件数や苦情の数は減少したが、決して少ない状態ではない。生徒の内面的な成長・発達が遅く規範意識の向上が遅れている。</p>					
改善方策等	<p>上記の現状や生徒個々の発達状況や実態を、教職員1人ひとりがしっかりと認識した上で、日々の教育活動で生徒にアプローチすることが必要である。</p>					

* 各評価値の合計基準=A→4, B→3, C→2, D→1に換算し、合計値を値の個数で除したものを五捨六入し、A～Dを表記

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価
生徒会指導	① 社会の一員としての規範意識や公德心を持ち、社会・集団の一員としての在り方を自覚する態度を育てる。	挨拶運動に加えて、中学校と連携し公共マナー向上の啓発活動を行う。	啓発活動の回数	啓発活動の回数が年間 3回以上…A 2回以上…B 1回…C 0回…D	A	A
	② 奉仕の精神を持ち、社会に貢献する人物の育成に努める。	募金活動やイベントの手伝い、福祉施設慰問などの活動を行う。	奉仕活動の回数	奉仕活動の回数が年間 3回以上…A 2回以上…B 1回…C 0回…D	C	
成果と課題	今年度は教育委員会生徒支援室の指導により、大宮小学校と三笠中学校と連携した活動を行うこととなり、合同で携帯電話マナーアップ啓発活動や福祉施設慰問などを行った。目標は設定しやすかったが、三校のスケジュールを合わせるのが難しくなかなか話し合う回数が取れなかった。校外の活動が増えるにつれ校内の活動が減り、何か考えていくことが必要である。					
改善方策等	校外の活動を夏休みなどに集中させて、学期中は校内へ目を向けていくようにしたい。					

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価
保健体育	① たくましい体力と旺盛な気力をそなえ、信念をもって粘り強く努力する人間の育成。	体育授業、部活動を通して、心身の向上を目指す。また、体育大会・球技大会への積極的な参加により、健康面の向上とともにコミュニケーションを高める。	体育大会・球技大会に対する生徒アンケート	アンケート生徒満足度80%以上A、70%以上B、60%以上C、50%以上D	-	B
	② 校内における美化、衛生面の向上について積極的に取り組む。	校内清掃・ゴミの分別について意識喚起を図り、公德心の向上をめざす。また、部活動関連施設の美化と事故防止のため、体育部員の啓発を行う。	生徒アンケート、および、ゴミの分別の徹底度	ゴミの分別徹底度80%以上A、70%以上B、60%以上C、60%以下D	-	
成果と課題	体育授業、部活動を通して、心身の向上をはかった。また、体育大会を本校グラウンドで実施した結果、生徒の満足度も非常に高かった。燃えるゴミと燃えないゴミの分別の徹底をはかったが、さらなる徹底が必要である。新館の廊下のワックス掛けと講義室等のワックス掛けを行った。					
改善方策等	校内清掃・ゴミの分別についての意識を教員、生徒ともに高めていく。校内における美化、部活動関連施設の点検に積極的に取り組む。					

* 各評価値の合計基準=A→4, B→3, C→2, D→1に換算し、合計値を値の個数で除したものを五捨六入し、A~Dを表記

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価	
国際文化	① 生徒の文化活動及び異文化理解を促進し、視野の広い生徒を育成する。	語学研修の内容の充実と文化鑑賞会の内容の精選	生徒アンケート	語学研修、文化鑑賞会参加生徒の満足度の平均が4割未満でD,4割以上6割未満でC,6割以上8割未満でB,8割以上でA	-	A C	
	② 生徒の読書量を増やすための活動を促進する。	朝の読書週間の実施、学級文庫の継続、一条高校ビブリオバトルの計画・実施及び定着化	図書貸出冊数	総貸出冊数1,200冊未満でD,1,200冊以上1,300冊未満でC,1,300冊以上1,500冊未満でB,1,500冊以上でA	-		D
	成果と課題	語学研修事業では、参加者が事前研修時から、積極的に取り組み、学年の垣根を越えた関係を築き、充実した内容の研修となった。イギリス語学学校においても積極的に学習に取り組み、互いに切磋琢磨し、ホストファミリーとの関係も築く努力をし、多くのことを学んだ。文化鑑賞会事業では、「爺さんの空」を観劇したが、生徒達に感じて欲しかった事、考えて欲しかった事がきちんと伝わり、好評のうちに終わった。図書館は授業等で利用されているが、貸出し冊数はここ数年伸び悩んでいるのが現状である。					
	改善方策等	年間3回の朝読週間、2回のビブリオバトルを行い、図書館で本を借りたり、図書館へ足を運ぶ機会を設けているが貸し出しの冊数には大きな効果を出すまでには至っていない。ビブリオバトルは、開始して3年を終え、運営・形態は定着してきている。来年度は校外で実施されるビブリオバトル大会への出場を目標に掲げ、校内での実施してゆきたい。					

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価	
人権教育	① 人権尊重の精神を養い、自他の人権を擁護する実践的な行動力を育てる。	人権教育ホームルームにおいて、生徒が主体的に取組むことができ、生徒の関心・感性に訴える教材を提供する。	生徒アンケート	「人権教育ホームルームや人権講演会などは充実している」の項目で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」が80%以上でA、70%以上でB、60%以上でC、60%未満でD。	-	A B	
	② 職員研修を通じて、教師自らの人権感覚を養う。	学年研修会の内容を充実させ、活発な意見交換ができるようにする。	人権教育部員によるチェック	全研修会で充分意見交換ができればA、以下状況に応じてB～D。	B		B
	成果と課題	①各学年において担任の先生方が各学期のテーマに基づいて生徒の心に訴える充実した人権教育活動を展開されたことが生徒の感想からよくうかがえた。また、人権教育講演会では生徒や参加した保護者からの反響もよかったので継続して講演会を開催したい。②においては研修会およびホームルーム実施に向けて担任集団が積極的に意見交換を行いながら準備を行う姿勢が見られた。また、夏期休業中に行った特別支援教育職員研修により、スキルを高めることができた。 各学期に行う人権教育ホームルームの回数を検討すること、第2学年第1学期と第2学期のテーマが在日と新渡日の違いはあるが外国人問題を扱う部分で重複する部分もあることから、テーマ選択を再検討することも考えられる。夏期休業中の職員研修は校務等で参加できない先生方もおられたので開催時期を検討する必要がある。					
	改善方策等	人権教育部内で次年度テーマの精選等の取組みを行う。					

* 各評価値の合計基準=A→4, B→3, C→2, D→1に換算し、合計値を値の個数で除したものを五捨六入し、A～Dを標記

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価	
情報	①	コミュニケーション能力を高め、互いを理解しようとする態度を育てるとともに、円滑な人間関係を積極的に築こうとする姿勢を育てる。	授業をはじめとする様々な教育機会において、デジタルメディアの活用を提案し、具体的な展開の研修を進める。	職員対象の研修を1回以上持ち、アンケートをとる。	総合的に判断する。	-	C
	②	利便性と正確性の向上	校務パソコンを含む校内のネットワークをより使いやすく整備する。成績処理等を正確迅速に行い、また個人情報取り扱いを厳正にする。	職員アンケートを、年度中間期、年度末の2回行う。	「よい」「だいたいよい」が80%以上A,60%以上B,50%以上C,50%未満はD	-	A
	成果と課題	重点目標①では、十分な環境が整えられておらず、また職員の関心もさほど高くはないことがわかった。従来型の授業形態に順次デジタルメディアの導入が自然な形で進む時期を待ちたい。②においては、異なるネットワークの利用の広報に努め理解を得た。また、行事日程の調整をしていただいたおかげで、1・2学期の成績処理は余裕を持って行えた。また、本校サイトのコンテンツの充実に注力し多数の閲覧を得た。多くの特殊印刷の依頼に応えられた。多様な要望に応えられるよう広報し、努力を続けていきたい。					
	改善方策等	校務パソコンでのメール利用希望が多く、逐次市教委に要望を出していく。					

* 各評価値の合計基準=A→4, B→3, C→2, D→1に換算し、合計値を値の個数で除したものを五捨六入し、A~Dを標記

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価
普通科	① 生徒の進路希望の実現に向けたサポートをする。	大学見学会の実施	生徒アンケート	具体的に役立ったという回答が、回答生徒数の80%以上ならA, 60%~79%ならB, 40%~59%ならC, 40%未満ならD	-	A
	② コミュニケーション能力を高め、互いを理解しようとする豊かな心を育む体験活動を行う。	物作り体験(陶芸実習)の実施	生徒アンケート	魅力があると答えた数が、回答数の80%以上ならA, 60%~79%ならB, 40%~59%ならC, 40%未満ならD	-	
	成果と課題	大学見学会は、進路実現に対する興味の強さがうかがえる。他学科との同時開催などを企画すれば、学年として同時期に進路を考える機会になるのではないのでしょうか。また事前学習を取り入れておれば、大学側の説明がより充実した内容となったかもしれない。陶芸体験学習をととして、クラス枠を超えた交流もあり良い機会であったと思う。今後、天気にも左右されない、またより良い内容となるような代替案を考えていく必要があるかもしれない。				
	改善方策等	大学見学会の同時開催には授業や引率の問題もあるが、他学科との打ち合わせをしていく必要がある。体験学習会で200名が同時に活動する設定で考えると、代替案を探すのは大変であるが、先生方や関係者など各方面から広く情報収集に努める。				

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価
外国語科	① 英語での表現力やコミュニケーション能力の向上を目指し、魅力ある外国語科事業を展開する。	異校種間連携を充実させ、また集中講座や総合学習発表を通して、英語運用能力を向上させながら、外国語への興味・関心を高める。	参加生徒へのアンケート	対象の項目への肯定的回答が回答数の80%以上でA、60~79%でB、40~59%でC、40%未満でD	-	A
	② 生徒の進路実現に向け、英語力伸長のための取組を強化する。	個々の学力に合わせた学習ができるように、多様な教材を提示し、リーディング、ライティング、リスニング力の向上をはかる。	GTEC for STUDENTS テスト	一年間の平均点の伸びが40点以上でA、30~39点でB、20~29点でC、20点未満でD	-	
	成果と課題	今年度は、全学年を対象にしたEUの講演をはじめ、各学年対象の特別講演や、集中講座、総合学習発表、奈良市ALTとの授業など、多くの行事を行った。また、校外での体験学習的な活動として、小学校出前授業や連携協定のある同志社女子大学訪問に加え、1年生において、東大寺付近での外国人へのインタビューやJICA関西・関西学院大学訪問を新しく実施することができた。ただし、各学年担当者の負担も大きく、今後各行事の時期や内容をさらに精選しながら、全体の計画を立てていきたい。				
	改善方策等	集中講座の内容・時期の見直しと、校外で実施する行事について、さらに内容を検討し、より充実したものになるよう努める。				

* 各評価値の合計基準=A→4, B→3, C→2, D→1に換算し、合計値を値の個数で除したものを五捨六入し、A~Dを表記

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価	
数理科学科	①	平成26年度新学習指導要領を軸に、生徒の科学技術、数学、理科に対する興味・関心及び知的探究心を育成し、進路意識の醸成を目標とする。	グローバルSPPで、科学講演会・サイエンスセミナー・課題研究などを大阪大・京都大・奈良先端大、奈教大と連携して行い、「体験的・問題解決的学習活動」を実践する。	実施報告書・アンケート等による生徒評価(良が8割以上で高評価としてカウント)	SPP①大阪大②京都大、③奈先大や、④課題研究⑤その他連携プロジェクトの4事業以上が高評価でA、3事業でB、2事業でC、他はD。	-	A
	②	21世紀における新しい理数教育の創造を目指し、科学技術コミュニケーション活動を推進する。	大学院生・大学生参加のチームティーチング(T.T.)を行い、学習活動を充実させる。教育プロジェクトによって得られた知見を生徒や教員が外部発表し科学技術リテラシーの向上を目指す。	T.T.の生徒評価(アンケート上記基準)、生徒による理数発表会、教員の学会発表の件数。	T.T.の生徒高評価および学会など外部発表の回数を合わせて5回以上でA、4回以上でB、3回以上でC、他はD。	-	A
	成果と課題	今年度は、奈良女子大学理学部と高大連携事業を締結した。文部科学省・独立行政法人科学技術振興機構の3つのSPP(AG140062「最先端研究(CREST)を実用化へ」、AG140063「地球・生命の歴史を推理力とコミュニケーション能力で検証する」、AG140064「食品の安全性とバイオサイエンス」)がすべて採択され実施できた。1月7日に行ったSPP報告会では、生徒が奈良市内の小学校教員へ実施内容を公開した。来年度へ向けて数理プロジェクト実施のための予算獲得が課題である。					
	改善方策等	大学との連携をさらに深化させ、積極的に大学や民間企業とも相互に支援・協力して有益な連携を構築する。来年度も国費プロジェクトに申請して予算獲得を目指す。					

* 各評価値の合計基準=A→4, B→3, C→2, D→1に換算し、合計値を値の個数で除したものを五捨六入し、A~Dを標記

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価	
人文科学科	①	人文科学科の取り組みを充実させ、生徒個々の進路実現の意欲を向上させる。	論文講座、特別講演の内容の精選・充実をはかり、大学・企業との連携の中で実践的な教育内容を導入する。	生徒アンケート	対象の項目で肯定的回答が80%以上でA、60%以上でB、40%以上でC、40%未満でD	-	A
	②	問題発見能力、問題解決能力を養い、実践的な思考力の向上をはかる。	フィールドワーク、グループワークなどの実践的な活動を通じ、協働して課題に取り組みコミュニケーション能力を高める学習内容を取り入れる。	生徒アンケート	対象の項目で肯定的回答が80%以上でA、60%以上でB、40%以上でC、40%未満でD	-	A
	成果と課題	今年度より、大学・起業との連携を深め、グローバル人材の育成を進める取り組みを開始した。より実践的な活動を取り入れることで生徒の意欲を喚起することができた。生徒間での意識に違いがあり、積極性をもった取り組みにかけた部分がみられたことが課題である。					
	改善方策等	特別講演やフィールドワークの意義を事前に提供し、自ら積極的に取り組みプログラムを設定することが必要である。進路実現に向け、生徒一人一人の意欲向上につながり、自主的に取り組める学習内容を設定することが肝要である。					

* 各評価値の合計基準=A→4, B→3, C→2, D→1に換算し、合計値を値の個数で除したものを五捨六入し、A~Dを標記

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価
第1学年	① 規範意識や公德心、正義感を育てる指導を強化する。	ホームルームや集会・学校行事などを活用し、規範意識や公德心の向上を図る。基本的な生活習慣を確立するため、遅刻指導を通して時間や規則を守ることの重要性を理解させる。	遅刻カードの集計	「年間の1学年の遅刻回数」 A:200回以内 B:300回以内 C:400回以内 D:401回以上	A	B
	② コミュニケーション能力を高め、互いの立場を認め合う共感的態度を育てる。	相手の立場を考え、互いの違いを認め合う人権感覚を育てる。学級活動や学校行事でなかまと協力する意識を育て、自主的に取り組ませる。	生徒アンケート	「学校行事に、なかまとともに自主的に取り組めた」「そう思う・どちらかといえばそう思う」の合計が A:80%以上 B:60%以上 C:30%以上 D:30%未満	-	
	成果と課題	担任・副担任の先生方の日頃のご指導により年間を通して大きな問題もなく、生徒たちは日々成長し、各行事ごとに団結して力を発揮してくれた。しかし遅刻回数・欠点者数とも学期を追うごとに倍増したこと、そして遅刻者・欠点者とも特定の生徒に限られるのもかなりの懸念材料である。今後は頑張る生徒とそうでない生徒の二極化にならないようにしていくことが課題である。				

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価
第2学年	① 生徒の進路実現に向けて、学力伸長のための取り組みを強化する。	進路指導部と連携し、ホームルーム活動や学年集会等を通して、進路に関わる情報や資料を提供し、自己の進路に対して、興味を持ち取り組ませる。	生徒アンケート	「自己の進路について興味を持ち取り組むことができた」そう思うどちらかといえばそう思うの合計が A:80%以上 B:60%以上 C:30%以上 D:30%未満	-	A
	② 社会の構成員として、よりよい社会の実現に尽くせるよう、規範意識や公德心、正義感を育てる指導を強化する。	規範意識の向上を図り、団体行動での規律を身につけさせる。また、クラス等のなかまとともに協力し充実した学校活動が送れるよう取り組む。	生徒アンケート	「団体行動において、なかまとともに責任がある行動がとれた」そう思う・どちらかといえばそう思うの合計が、 A:80%以上、B:60%以上 C:30%以上、D:30%未満	-	
	成果と課題	学年集会やLHR等の学級活動の指導をとおして、団体で行動する際の態度について、一定の成果が見られた。さらに、なかまとともに協力できる修学旅行を目指していきたい。進路については、学年集会、LHRの指導により、具体的な目標設定をもつことに前向きになってきた。ただ、具体的な目標設定ができていない生徒も多く、今後も個々に対する指導を継続的にこなす必要がある。				

評価項目	重点目標	具体的方策	判断資料	判断基準(数値化基準)	中間評価	年度末評価
第3学年	① 生徒の希望進路実現にむけ、学力伸長のための取組を強化する。	生徒の主体的な学習を促すため、進路指導部と連携し家庭学習や計画的な学習方法について適切なアドバイスを与えるとともに、情報提供と意識の高揚を図る。また、部活動との両立を図るための取組を強化する。	生徒アンケート	「希望進路実現にむけての情報提供やアドバイス等が効果的であった」が A:80%以上、B:60%以上、 C:40%以上、D:40%未満	-	B
	② 進学や就職に対応できる能力を身につけさせる。	進路の取組に向けて、授業や平日・長期休業中の補習等の内容を充実させる。また、部活動等で補習に参加できない生徒への個々の対応を強化する。	生徒アンケート	「授業や補習等が進路実現のために役に立った」が A:80%以上、B:60%以上、 C:40%以上、D:40%未満	-	
	成果と課題	希望進路実現にむけての情報提供やアドバイス等が効果的であったと解答した生徒は79%、授業や補習等が進路実現のために役に立ったと解答した生徒は75%であったので、目標に近い結果ではあるが、そう思わない生徒に対しての今後の取り組み方法や内容は課題である。多くの生徒から先生方からいただいたアドバイスを、「言われてきたことを、しっかり受けとめていれば良かった」という声が聞かれることが多く、進路資料の合格体験記等に載せられていることもあるが、この先輩達の生の声を後輩に伝える方法があれば良いのではないかと思う。				

* 各評価値の合計基準=A→4, B→3, C→2, D→1に換算し、合計値を値の個数で除したものを五捨六入し、A~Dを標記